

T1a、T1b の腎がん患者の 術後 10 日以内の退院率



測定対象

《分子》 分母のうち、術後 10 日以内に退院した患者数

《分母》 腎悪性腫瘍（初発）の T1a、T1b で腎（尿管）悪性腫瘍手術を施行した退院患者数

解説

本指標は、指標「T1 a、T1b の腎がん患者に対する腹腔鏡下手術の実施率」のアウトカム指標となっています。腹腔鏡手術は、開腹手術と異なる手術技術の取得と局所解剖の理解が不可欠であるため、各病院が自院の状況と患者の状況を踏まえて適切に術式を選択しなくてはなりません。腹腔鏡手術を行うことにより腎がん患者の在院日数を短縮することが可能となります。本指標では、対象患者（11001xxx01x0xx）の診断群分類点数表における入院期間 2（7～13 日）を参考にした日数にしています。

結果

2019 年度 93%

2018 年度 96%

分析

初期腎がんの早期退院ができています。これはより低侵襲な腹腔鏡下手術が増えたことも一因であると考えます。